

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	両ユニットの壁に法人の理念と行動規範を掲げ申し送り時に唱和し、一人一人が自分の行動に落とし込めるようにしている。本社の研修においても理念・行動規範を全体的に統一できるようにしている。	各ユニットの目につき易い所に理念や行動規範を掲示し、また、申し送り時に唱和し、共有と実践に繋げている。家族に対しては利用契約時に重要な事項説明と合わせ理念に沿った支援について説明している。また、新人職員については本部の研修センターにおいて3ヶ月間の導入研修があり、中途採用の職員については3週間の研修を行い、理念、行動規範に対する認識を深め、利用者に対する支援に繋げるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に地元保育園との交流をしている。園児が散歩でホームの前を通る際には手を振って挨拶してくれお客様の楽しみになっている。地元のお客様は、散歩の際に顔なじみの方に会う事もあり、地域の方も会えることを喜んでくれている。	開設以来区費を納め地域の一員として活動している。日々の散歩の際には近隣住民と気軽に挨拶を交わす関係ができています。新型コロナ禍が長引き殆どの地域行事が中止となり残念な状況が続いている。そうした中、近くの保育園児との窓越しでの交流活動が継続されており、ホームの駐車場で縄跳びや歌を披露して利用者も笑顔を増かす楽しいひと時を過ごしている。地域ボランティアの来訪も現在は自粛しているが、新型コロナの状況を見ながら再開する意向を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在コロナ禍でサマーチャレンジボランティア・介護の職場体験など受け入れが出来ない状況であるが状況が改善されれば積極的に受け入れていく予定がある。地元の小学校の郊外指導部からの依頼で、子供を守る安心の家としてのぼり旗を設置した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在コロナ禍でホームでの会議の開催は見合わせており、ホームからの報告になっている。状況によりホームではなく地域の公民館での開催も検討したいがまだコロナの感染拡大が懸念されておりめどは立っていない。	例年だと2ヶ月に1回、偶数月に運営推進会議を開催しているが、新型コロナ禍の状況が長引き書面での開催が続いている。入居状況、事故・ヒヤリハット、職員状況、活動などの報告を書面に纏め、区長、民生委員、地域包括支援センター職員、近隣住民、あんしん(介護)相談員に手渡しでお届けし、意見・助言等を頂き、サービスの向上に繋げている。また、次回より、新型コロナの状況を見ながら近くの公民館において対面での会議開催を予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームの実情や課題を報告し、担当者から意見をもらっている。	近くにある基幹病院に地域包括支援センターがあるので利用者の紹介、待機者の共有等、様々な事柄についてきめ細かな連携を図っている。あんしん(介護)相談員の来訪も新型コロナ禍で中断されているが、市として再開した際には積極的に受け入れを行う予定である。介護認定更新調査は調査員が来訪し職員が対応している。	

グループホームまゆ松代

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社全体のリスクマネジメント委員会を中心に身体拘束ゼロに取り組んでおり3ヶ月に1度研修をしている。「カギはかけない」をホームの方針として職員全員で見守り対応ができるようインカムを導入し対応している。所在確認の徹底も、週報で重点目標を決め取り組んでいる	法人の方針として拘束のない支援に取り組んでいる。玄関は日中開錠されているが、北側の掃き出し窓と合わせ出入りはチャイム音で知らせるように工夫されている。帰宅願望の強い利用者があるが、きめ細かな所在確認を行い安全確保に繋げている。転倒危惧がある利用者や夜間、トイレ介助が必要な利用者があり、安全確保のため人感センサーを使用している。3ヶ月に1回の身体拘束適正化委員会に合わせリスクマネジメント委員会も開き、拘束に対する意識を高めつつ支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修委員会で計画的に研修を行っている。管理者が研修を受け、ホームに持ち帰り、職員に伝達講習をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社の研修に位置づけられており研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書・重要事項説明書に添って説明し同意を得ている。改定の際は文書にて説明しご理解をいただいている。個別に質問など受けている。解約については病院のケースワーカーとも連携し対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年4回のお便りやブログを通してお客様の日々の様子を伝えている。コロナ禍で面会も場所や時間を制限させていただいているが、その際にもご意見等伺うようにしている。	家族の面会については新型コロナ禍が長引き、現在も事前に連絡を頂き、玄関にて15分位の面会を行っている。中にはスマートフォンのビデオ通話でお話されている方がいる。そうした中、ホームでの生活の様子は年4回発行されるお便り「グループホームまゆ松代」でお知らせし、利用者一人ひとりの様子は担当職員より一言コメントに写真を添えてお届けし家族より喜ばれている。新型コロナ前に行っていた家族会も現在は中止の状態が続いているが、コロナの状況を見て再開する意向を持っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で行事・委員会の報告、本社からの伝達事項を行っている。議題提案書を使用し職員の意見を積極的に聞き改善できるようにしている。	毎月1回、20日前後に職員会議を行い、会社からの連絡、各種研修会、各委員会からの連絡、意見交換等を行い、業務内容の向上に繋げている。法人として人事考課制度があり、キャリアシートを用い自己目標を設定し、年2回、所長との個人面談の際に進捗状況を話し合い、モチベーションアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を用い管理者との面談を年2回行っている。昇給・賞与等の条件面については能力・姿勢(仕事への取り組み・会社への貢献度)などを考慮している。育児休暇の推奨しており個人の状態に応じ柔軟な働き方ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の特定施設を研修センターと位置づけ採用時には1~3ヶ月の研修を行っている。OJTシステムを取り入れ、メンターが対象の職員について1ヶ月指導を行う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在コロナ禍で社外との交流を持つことは難しい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談の時点でご本人やご家族・ケアマネジャーから情報を頂き要望をお聞きするようにしている。申し込み後の現況確認時にも家族からの相談にのっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にはしっかりと時間を設けご本人の状態やご家族の要望等聞くようにしている。ご家族には来所時やTELなどで情報収集するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談の時点でケアマネジャーと連絡を取り合いご本人にとって最適なサービスは何かを相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行動規範の中にもあるように、職員とお客様がお互いに感謝し合えることを目標にしている。ご本人のできそうなことをみつけ、出来ている事の継続を図れるようケアプランに取り入れ支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診や行事の際にはご家族の協力を得ている。また、ご家族の代表2名に運営推進会議のメンバーになっていただいている。ターミナル期には、できるだけ来訪を促し可能であれば付き添っていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣への散歩等の折、知人と会う事もある。個別に有償ボランティアの利用によりお散歩に行くことから馴染みの関係が深まっている。写真やDVDを観ながら、思い出話をしてもらうように働きかけている。	基本的には新型コロナ禍でもあり面会は自粛しているが、利用者の自宅近所の方より電話にて面会の申し込みがあった場合は、家族の了解を頂いた後、玄関にて15分以内の面会を行っている。おやつのお菓子等、希望の物は職員が馴染みの店に買い物に出掛け利用者の希望に沿えるように努めている。理美容については月1回、馴染みの美容師の来訪があり、カット、カラー、パーマなど、事前に希望を伝え、利用者も当日を楽しみにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	フロア固定せず、気の合う仲間同士と一緒に お茶を飲んだり話ができるよう配慮している。 又、時間帯によりフロアを移動して頂き、孤立しな いように仲間と交流できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してしまった方には関連事業所や病 院への情報提供を行い、必要に応じて相談に のっている。死亡退去されたご家族から、衣類な どの差し入れをいただくこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	思いや意向を伝えられる方には、しっかりと希望 を聞くようにしている。困難な方に対しては、ご家 族やケアマネジャーからの情報をもったり、日常 の会話や、生活歴から情報を得るようにしてい る。	殆どの利用者は自分の意思を表せる状況にあるが、若 干名の方が難しい状況であり、問い掛けに対する表情 や仕草から希望を受け止めるようにしている。そうした 中、日々の会話の中で気づいた事柄は介護記録に纏 め、申し送りで一人ひとりの状況を確認し合い、日々の 支援に繋げている。また、トータル的には職員会議で振 り返りの時を設け、情報を共有し、利用者の希望に沿え るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	ご本人・ご家族・ケアマネジャーや前事業所より情 報を収集している。日々の記録の中より情報を 集め職員間で共有出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	職員会議・アセスメント会議により、お客様の心身状 況を再アセスメントし、職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	モニタリング表にて毎日ケアの実施をチェックして いる。月間チェック表でモニタリングを行っている。ア セスメント会議を定期的に行い、現状に即したプラン を作成している。又、ご家族のご意見・ご要望に 対しても日頃から伺っている。	職員は2~3名の利用者を担当し、居室管理、誕生日会 の準備等を行っている。パソコンのモニタリング項目を 利用しモニタリングを行い、カンファレンスの席上意見を 出し合い、家族からお聞きしている要望も加味しながら プラン作成を行い、ケアマネジャーが最終チェックを行 い支援に繋げている。入所時は暫定で1ヶ月間のプラン の作成を行い、様子を見て本プラン作成に繋げ、基本 的には短期目標を6ヶ月で見直し、状態に変化が見られ た時には随時の見直しを行い、一人ひとりに合った支 援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケース記録と月間チェック表・モニタリン グ表を用いている。状況に応じて、排泄シート・24時 間シート等、適宜使いアセスメントしている。		

グループホームまゆ松代

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	人によっては個々に有償ボランティアと契約してもらい散歩等楽しまれている。食べたい物等、食事作りの方に協力してもらい出来るだけ対応している。又、内科・歯科とも連携し終末期にも対応している。薬剤師による薬剤管理も導入している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	様々なボランティアの来訪は現在コロナの影響で中止。近隣の象山保育園との交流は年2回行っている。個別に契約をし散歩のボランティアさんが入っている方もいる。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は全員が月2回の協力医の往診を受けている。インフルエンザ・コロナウイルスの予防接種もホームでの集団接種をお願いしている。又、歯科医・衛生士の訪問も月に1~2回あり口腔衛生に努めている。	入居時に医療機関についての希望を聞き、ホームとしての取り組みを説明している。現在、全利用者がホーム協力医の2週間に1回の往診で対応し、24時間のオンコール対応も可能となっている。所長が看護師でもあり日々の健康管理と合わせ医師との連携が図られている。歯科については必要に応じて月1~2回、協力歯科の往診で対応し、合わせて歯科衛生士の来訪も月1回あり、口腔ケアの指導もいただき口の健康に繋げている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師を配置している。日々の状態観察より状態の変化や情報をあげ随時指示をおおげの体制をとっている。夜間についてもオンコール体制をとっており24時間365日医療につなげられるようになっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行っている。退院に向けて担当ケースワーカーと連携を取り合い共働している。病状説明の際は可能な限り立ち合い退院後の生活がスムーズ送れるよう支援している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の指針について説明している。更新時、状態変化時には看取りについての希望の確認をしている。ターミナル期には、医師より説明を行い医師・看護師・介護職員で方針やケアについて話し合っている。協力医と連携をはかり最後まで寄り添い、悔いの残らないよう家族にも付き添ってもらおうようにしている。	重度化、終末期に対する指針があり、利用契約時に説明している。入浴や食事を摂ることが難しい状況となり終末期を迎えた時には家族、医師、ホーム職員で話し合いの場を設け、家族の意向を確認の上医師の指示の下、改めて看取り同意書にサインを頂き医療行為を必要としない限りにおいて看取支援に取り組んでいる。この1年以内に1名の方の看取りを行い、コロナ禍での対応に家族より感謝の言葉を頂いている。また、法人の看取り研修を受講した職員が講師となり勉強会を行い、看取り支援への備えとしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には24時間看護師・医師と連携を取れるようになっている。管理者が救命救急の普及員であるため現場での指導もしている。事故に関しても必ず管理者に報告するようにルール化されている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を行っている。土砂災害想定 の避難訓練も実施した。風水害については全社 的な訓練を昨年11月に行った。全社的にマニ ユアルの整備も行っている。	6月に消防署参加の下、火災想定 の防災訓練を行った。消火訓練、通報訓練、玄 関と北側掃き出し窓より外へ移動しての避難 訓練を実施した。また、10月には夜間の火災を 想定した訓練を予定しており、2名の夜勤職員 で、1名は関係部署への通報訓練、1名は消火・ 避難の訓練を予定している。合わせて緊急連絡網 の確認訓練を定期的に行い、防災への備えとし ている。備蓄については「レトルト食品」「アル ファー米」「水」等、消費期限を確認しながら蓄 えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている	ユマニチュードの研修を受け、実施に取り組んで いる。「見る」「話す」「触れる」など項目ごと に目標を決め、週報で結果の管理を行い、でき るまで繰り返し実施している。	言葉遣いには配慮をし、人生の先輩である利用 者に尊敬の念を込め優しく接するようにしてい る。また、「ユマニチュード」の研修を通し、項 目毎に月の目標を掲げ「ドアノックの仕方、入 室の際は3回ノック」「顔の向いている方から 話しかける」等を確認し、気持ちよく過ぎてい ただくようにしている。呼び掛けについては入 居時にお聞きした希望に合わせて「さん」付け でお呼びしている。中には馴染みの呼び方で お呼びしている方もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、 自己決定できるように働きかけている	できるだけ自己選択・自己決定できる場 面を設けている。日々のお茶やお菓子を選 んだり入浴時の服を選んでもらう等支援し ている。新聞の折込チラシやTVの中のもの など食べたいものを聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をど のように過ごしたいか、希望にそって支援 している	その時々に応じ起床時間・食事時間・場 所などを柔軟に対応している。フロアの壁 に「私たちはお客様の幸せのために仕事 をする」「お客様目線を忘れない」と書 いたものを掲示し、申し送り時に行動規 範とともに唱和している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれが できるように支援している	訪問理美容を利用し、髪を染めたりパー マをかけたりできるように支援している。 誕生日・新年会・敬老会等は、よそ 行きの服を着たり、おしゃれができ るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付け をしている	月～金曜日の昼食は有償ボランティア さんによる手作りの食事を提供してい る。又、行事や誕生日会には食べたい 物をお聞きし提供している。準備や片 付けは、できる方に自身の役割として やっつけている。	半数の利用者が自立しており、三分 の一強の方が一部介助、若干名が全 介助という状況である。献立は朝食 については夜勤職員が冷蔵庫の中 の食材を見て調理し、月曜～金曜 日の昼食は調理専門の有償ボラン ティアが調理した手作り料理を 楽しんでいる。夕食の「副食」に ついては法人の配食会社のもの を使い、「ご飯」と「汁物」は ホームで調理しお出ししている。 誕生日には好きな「井ぶり物」や 「デザート」等を楽しんでいただき、 秋には「干し柿」作り等も楽し んでいる。現在は外食も自粛 しているが、新型コロナの様子 を見ながら再開したいという 意向を持っている。	

グループホームまゆ松代

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々、食事量のチェックを行っている。状態に応じてトミやゼリーを活用し脱水予防に努めている。又、ご家族にも協力して頂き、好みの物を差し入れしてもらおうこともある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、その方に応じた方法・用品で行っている。義歯は毎日洗浄剤で消毒している。又、歯科医師・衛生士の訪問が定期的でありアドバイスを受け、注意事項は申し送りノートにて確認できるようになっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は17の方が布パンツを使用し夜間は7の方がオムツを使用している。入浴・排泄委員会でモニタリングを行いハット類や介助方法の見直しを行っている。排泄シートにより、定時誘導も柔軟に対応し失敗を減らすよう支援している。	現在、全利用者が何らかの介助を必要とする状況であるが、日中はトイレでの排泄を心掛けている。夜間、おむつ使用の方が三分の一強、ポータブルトイレ使用の方が若干名という状況である。職員は利用者一人ひとりの状況を把握しているので、起床時、食事前、就寝前の定時誘導と合わせ、排泄表も参考に一人ひとりの様子を見て周りにわからないように声掛けをしている。排便については2～3日間ない場合はコントロールを行い、乳酸菌飲料、お茶、スポーツドリンク等の水分を摂取し排便に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々チェック表で排便確認をしている。できるだけ自然排便を促せるよう毎朝乳酸菌飲料の提供や食物繊維の多い食事や水分の提供を行い、便秘予防に努めている。また、午前午後と一日2回は体操の時間を設け体を動かすように働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴排泄委員会で入浴シートの見直しを行い安全安楽な入浴ができるよう支援している。入浴拒否の方に対しては人や時間を変えたりと工夫をし週2日の入浴につなげている。ゆず湯や菖蒲湯等で季節を感じていただけるよう工夫したり入浴剤を適宜使用し、入浴を楽しめるよう努めている。	見守りで自立の方が若干名いるが、他の大半の利用者は介助が必要な状況で、一人ひとりに合わせ支援している。1日6名の入浴を行い、週2回、入浴を行っている。入浴拒否の方がいるが、誘い方の工夫をし入っていただくようにしている。「ゆず湯」「菖蒲湯」等で季節感を味わっていただき、入浴後にはスポーツドリンクやビール等、好きな飲み物を楽しんでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団かベッドかは入居前と同じスタイルにしている。安全面の配慮から低床ベッドの導入も行ってはいる。居室にこだわらず、フロアのソファでも休息をとれるようにしている。冬季には電気毛布やあんかなど使用し心地よく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬については薬の説明書をファイリングし、いつでも見られるようにしている。内服方法の統一化が図れるよう飲み方一覧表を作成しそれに基づき内服してもらっている。主治医やかかりつけ薬局とも連携し適宜相談できるようにしている。		

グループホームまゆ松代

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事の時等はお酒の提供をしたり毎日ではないが晩酌を楽しまれている方も居る。日々の掃除・洗濯・炊事等できる事をやって頂けるように支援しスタッフからの感謝の言葉でやりがいを持っていたり出来るよう支援している。又ボランティアさんとの散歩により気分転換されてる方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出は自粛状態であるが季節を楽しめるよう森ヘジャーマンアイリスのお花見に出かけた。先日は駐車場にて屋台の雰囲気の中、花火大会を開催した。個々に有償ボランティアと契約をし定期的にお散歩に出かけている方も居る。	外出時、自力歩行の方が数名、杖使用の方とシルバーカー使用の方がそれぞれ若干名、車いす使用の方が三分の二という状況である。新型コロナ禍が長引き外出活動も自粛しているが、天気の良い日には散歩の有償ボランティアの来訪があり、希望者はゆっくり時間をかけホームの周辺の散歩を楽しんでいる。そうした中、今年の春には千曲市までジャーマンアイリスのお花見に出かけ楽しいひと時を過ごしている。新型コロナ禍が続いているが様子を見ながら外出計画を立て、花の季節に合わせ「おにぎり」を持ち川中島古戦場や松代城址迄外出したいとする意向を持っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はコロナの影響で買い物にお連れすることはしていない。以前は個々の買いたい物などお聞きし一緒に買い物にも出かけていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	文字が書ける方に対しては手紙や葉書など書いてもらっている。LINEのビデオ通話を取り入れ電話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア間の扉は開放できるようになっており行き来は自由にできる。体操や大人の学校時には、ほぼ全員の方が集まり参加している。キッチンは対面式になっており家事参加がしやすい環境にある。トイレは各ユニットに2ヶ所あり、車椅子でも不便なく入れるスペースが確保されている。	一日の大半を過ごし寛ぎの場となっているホール兼食堂はユニット間を仕切っているパーテーションを開放することができ、食事、体操、大人の学校等、18名の利用者が一体感を持って活動することができる。壁には利用者の手作りカレンダーや絵手紙等の作品が飾られ、活動の様子が覗くことができる。浴室は3方向から介助することができ、トイレは車いすでもゆったりと利用できるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	両フロアにはソファがそれぞれ置いてあり気の合う仲間同士で自由に過ごしている。お茶や食事を他のフロアで摂ることもある。事務所や相談室など使用していない時は自由に使ってもらっている。		

グループホームまゆ松代

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ馴染みの物や大切にしている物をお持ちいただいている。居室の壁にご家族やご自身の写真を飾り、ご自分の居室であることを認識できるようにしている。	居室入り口には利用者の氏名と担当職員の名前が掲示されている。持ち込みは自由で、家族と相談の上、タンス、衣装ケース、ハンガーラック、時計等をレイアウトし、家族の写真、趣味の人形、花、自分の作品なども飾り、中には化粧箱等をお持ちの方もおり、思い思いの生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室など目的の場所がわかりやすいように張り紙をしている。夜間も照明を工夫し、トイレの場所がわかり易くしている。居室内は個々の能力に応じレイアウトを工夫している。状態の変化時には福祉用具の検討、導入により安全面の確保を行っている。		